

富士山測候所レドームをつくろう

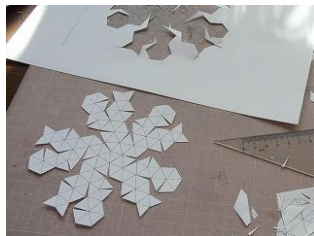
How to make a paper geodesic dome model



かつて、富士山測候所には、直径9mの球形のレーダードームが白く燦然(さんぜん)と輝いていました。この気象レーダーは、日本に近づく台風的位置を早期に探知するため建設され、昭和39年(1964年)に運用を開始しました。しかし、平成11年(1999年)に気象衛星により観測できるようになったことから運用を停止し、平成16年(2004年)には富士山測候所も無人化されました。

アンテナを保護するためのドームは、ジオデシックドーム(geodesic dome)という三角形の多面体で構成された特徴的な形体をしており、測候所のシンボルでもありました。

(用意するもの) フォトマット紙、新聞紙、木工用ボンド、大和のり、カッターナイフ、定規、(インク切れの)ボールペン



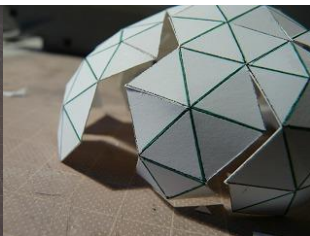
❶ 展開図の外周をカッターナイフで切り抜きます。



❷ すべての折り線に折り目をつけて山折りします。この時点で、すでにドームのような形になります。
* 折り筋をつけるにはインク切れたボールペンが最適です。



❸ ドームは、六角形、五角形、半五角形の3つのパターンで構成されています。各六角形、五角形の切れ目を裏側から紙をあてボンドで接着します。



❹ 切れ目を貼り合わせた六角形、五角形は、中心がややもちあがった傘(アンブレラ)のような形になります。



❺ とり合う六角形、五角形、半五角形のへりを、球形の裏側を上から下へ順次、紙で糊づけします。* 裏張りの紙は新聞紙のようなやわらかい紙のほうがうまくいきます。何枚も重ね貼りをすれば強固になります。

